

a 学校教育目標	将来をたくましく切り拓いていく力を身につけた生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立つ志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 信頼される学校 (保護者「通わせて良かった」、生徒「ここで学んで良かった」、地域「母校として誇れる学校」)
----------	-----------------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	主体的に学ぶ生徒の育成	○主体的な学びの推進 ○ICT及び思考ツールの活用 ○アウトプット型授業の推進 ○年間一人一回以上の研究授業及び相互参観	①「授業で表現活動を多く取り入れている」と回答する生徒の割合【R4-75%】	80%	86%	106%	A	考えたことを発表したり、文章で記述したりする活動を教科の特性に合わせて取り組むことができている。特に自分の考えを根拠をもって書くことへの苦手意識は高い。	授業におけるペア・グループでの教え合いを適切に設定することを継続して行う。全教科で自分の考えを文章でまとめる活動を意識的に増やしていく。	4			・自分で考える、文章にまとめる、書く力をつけることは重要です。セミナーやミラシードなどの利用等努力がうかがえます。 ・表現活動への取組は成果を上げているとみられる。 ・基礎学力の向上に向け、後半に向け何らかの改善が図られるよう期待されています。	
	基礎学力の向上	○「授業モデル」を活用した授業づくり ○学力調査の結果を活用した授業改善	②実力テスト等で全国平均を上回る生徒の割合。【R4-50%】	70%	48%	68%	C	1年生57%、2年生41.3%、3年生43.5%であった。平均点以下の生徒のうち、-5p以上回っている生徒が8~9割であるため、底上げが必要である。	全年間でセミナー等を活用した家庭学習と毎日の帯学習につながりを持たせる。朝の活動でミラシードを利用した基本問題を実施する。	3		1	・基礎学力の向上に向け自信や出来た喜びを伴うことが大切。	
豊かな心	自他を認め合い、共に高まる生徒の育成	発達支持的生徒指導の推進 社会人としての自覚の醸成	○異年齢集団活動、生徒の自主的活動の充実 ・全校縦割による清掃活動や各種行事等の充実 ・学校行事、生徒会活動の充実 ○奉仕活動・社会貢献活動の推進 ・献血ボランティア活動・地域や校内ボランティア活動の充実 ・校区内小学校との清掃活動	自己肯定感・自己有用感に関する質問において肯定的評価の割合【新規】	90%	82%	91%	B	縦割り活動が上手く機能している。しかしながら、否定的回答が10.6%となった。	毎年の課題としてあげられた項目「自己肯定感」である。ここ数年は数値が向上または高い位置にある。現在の取組を継続させながら、QUのデータともリンクさせ、否定的回答生徒の個別面談等の場面を増やす。	4			・縦割り活動が今後どのように結実するか楽しみです。 ・否定的回答生徒のフォローをお願いします。 ・良いところを言い合える集団を目指して下さい。
			「主体的にボランティア活動に取り組んでいる」と回答する生徒の割合【R4-78%】	80%	63%	79%	C	今年度献血ボランティア活動は4月・6月の2回実施した(7月は中止)。立ち上げ当初の盛り上がり下がりがつつある。しかし普段の校内での掃除の様子は本校の誇りである。	献血ボランティアを11月・2月に予定しており、生徒会執行部が取組に向けて準備している。教員主導から生徒主導へと取組の在り方をシフトチェンジし、取組を盛り上げていく。	4			・生徒主体による献血ボランティア活動を更に向上させてください。 ・清掃活動も行き届いており、今後も一中の伝統として引き継いでください。	
健やかな体	自らの健康を自ら管理できる生徒の育成	体力・運動能力の向上、食育の推進、健康的な生活習慣の確立	○新体力テスト結果の分析に基づく体力向上の取組 ○「弁当の日」の取組 ○基本的生活習慣の確立	①平日睡眠7時間以上の生徒の割合【R4-81%】	85%	81%	95%	B	就寝時間は、登校日と休日では変化はないが、約25%の生徒が11時以降に就寝している。スマホ・ゲーム・テレビなどを1日3時間以上使用している生徒が55.4%おり、デジタルデバイスとの上手な付き合い方が求められる。	保健だよりで基本的生活習慣について啓発すると共に、保健室来室時に個別の保健指導を充実させる。また、担任と連携して懇談などで健康的な生活について情報発信をしてもらう。	2	1	1	・子供の生活習慣を家庭でも把握する必要がある。 ・将来益々デジタルデバイスが浸透していくことを想定するかどうかを見極めることができる人になって欲しいです。
信頼される学校	教職員の職務遂行意欲の向上	時間外勤務時間の縮減	○働き方改革の推進 ・部活動休業日、定時退校日の徹底 ○業務の効率化 ○各種行事の見直し	①生徒の完全下校後、2時間10分以内に退校する職員の割合【R4-91%】	95%	89%	93%	B	昨年度より数値は下がっているが、時間外勤務45時間を超える職員の割合は昨年度と変わらない。年度初めや定期テスト作成・成績処理の時期、また行事が重なった時に退校時間が遅くなる傾向がある。	10/2から完全下校が16:50になるので、最終の退校時間が19時となるよう、職員への呼びかけを行っていく。また、週1日の定時退校日を徹底させ、積極的な年休取得も呼びかける。	2	1	1	・時間外勤務については数値目標を立て、達成しようとしていることに評価できる。 ・年休を取得しやすい環境であることと教員が抜けた時間のフォローをお願いします。

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100

C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。

ハ: 分からない。